

# 歴史・景観と調和した川づくり－永平寺川－ (永平寺門前の再構築プロジェクト)

高橋義治・中島智一郎

## 1. はじめに

1244年に道元により創建後、約780年にわたって禅の修行の場としての歴史を築いてきた大本山永平寺は、近年の世界的な禅（ZEN）への関心の高まりにより国内外で知名度が高まり、外国人観光客も増加している。この機会をとらえ、永平寺の歴史と禅を体感できる観光拠点として門前町の再開発を行う「永平寺門前の再構築プロジェクト」が2014年より開始された。本件は永平寺と連携した森ビル株式会社による宿泊施設整備を核とし、福井県による永平寺川の修景、永平寺町による旧参道の再生を一体的に行うものであり、景観アドバイザー（学識者）の意見を取り入れながら総合的に検討を進める、産学官が一体となったまちづくり事業として進められた。

本件が企画された当初、北陸新幹線金沢開業、舞鶴若狭自動車道の全線開通、中部縦貫自動車道の福井北IC-大野間の開通などの高速交通ネットワークの整備進展や、2018年に福井しあわせ元気国体、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの大規模イベントが予定されていた。この好機に県を代表する観光地である大本山永平寺とその門前町の魅力を最大限に高め、集客を促す上で、地域との連携、デザイン、工期調整、PRなど様々な課題を短期間で調整する必要があり、森ビル株式会社が都市開発のノウハウを生かして調整役となり、各機関で事業が進められた。

福井県は永平寺川の改修・修景を担当した。寺社や民間企業等と連携した公共事業は県としても新しい試みであり、走りながら次々と課題を解決していく状況にあった。完成に向けた取組みや課題対応等についてここに報告したい。



図-1 プロジェクト位置図

## 2. プロジェクトの経緯

本プロジェクトは、2012年に大本山永平寺と森ビル株式会社との間で結ばれた「永平寺をめぐる環境の再構築を構想する『禅の里』事業に関する基本協定」を基本として立ち上げられた。どこにでもある観光空間ではなく、独自の歴史と資源を活かした新たな空間づくりによる門前町の再構築を目指し、1600年代の古地図をもとに歴史の再現と現代との融合を図る取り組みが進められた。

2014年に永平寺町が「永平寺門前の再構築プロジェクト」を社会資本整備総合交付金で申請したことを皮切りに、宿泊施設、旧参道、河川整備の役割分担や協力体制を関係機関で合意し、プロジェクトが開始された。

2015年には永平寺町と森ビル(株)とで「まちづくり基本協定」が締結され、事業が本格化する中、県も河川に関する景観設計や用地取得を開始した。

各事業が同時並行で進められたため、様々な事業間調整で難航したが、2018年には町の旧参道事業と県の河川工事が終わり、2019年に永平寺による禅の宿「柏樹關（はくじゅかん）」も完成し、プロジェクトが完了した。

### 3. プロジェクトの役割分担

本プロジェクトの計画にあたっては、大本山永平寺・県・町および福井県景観アドバイザーが定期的集まって意見交換し、旧参道再生基本計画としてイメージの共有を図ったうえで三者がそれぞれの事業を進めることとした。景観アドバイザーは日本の造園学の第一人者である福井県立大学の進士五十八学長に務めていただき、「歩く人の五感に語りかける」視点での空間づくりの指揮が図られた。また、森ビル株式会社がこれまでの再開発事業のノウハウをもとに関係機関の調整を図り、計画を取りまとめ、円滑な事業進行を後押しした。

表-1 プロジェクトの役割分担

「永平寺門前の再構築プロジェクト」	事業主体
外国からの参拝にも対応できる宿泊施設の整備	大本山永平寺
旧参道との一体的な永平寺川の改修・修景	福井県
1600年代の古地図に基づく旧参道の再生（無電柱化）	永平寺町
ゲートウェイとなる観光案内所等の整備	永平寺町
急傾斜地対策の実施	福井県
プロジェクトの総合調整・監修業務	森ビル(株)

### 4. 永平寺川の改修について

永平寺による宿泊施設や町による旧参道の整備に関する取組詳細は他の報告等に譲り、ここでは河川事業に関する取組について報告したい。

#### 4.1 川づくりのコンセプト

本事業の中で、福井県が担当した永平寺川は、永平寺の存する大佛寺山を源流として境内や門前町を流れ、九頭竜川に注ぐ一級河川である。特に本件の事業箇所は、本プロジェクトの対象である宿泊施設と旧参道の間を流れており、その修景整備は地域の要となるものである。

宿泊施設と旧参道のイメージと一体感を持たせ、周囲の風景に溶け込む空間とするよう、景観アドバイザーから助言をいただき、関係機関と何度も意見交換を図ることとなった。その中で作成されたのは石積みによる護岸改修、水に親しめる場所の設置、起伏に富んだ河道といった内容であり、

細かな形状から色についてもアドバイザーの意見を頂いて丁寧に調整を図る必要があった。以下に景観アドバイザーからの提言と事業コンセプトを記す。



図-2 宿泊施設のイメージ図



図-3 親水スペースのイメージ図

<景観アドバイザーによる提言>

- ・ 広いところ狭いところがある「自然な川」がほしい（川は川らしく）
- ・ 護岸形状は土地に合わせて自由度を持たせること
- ・ 護岸形状は単調にならない様タイプ分けが必要（自然風と野面風）
- ・ 高い護岸は植栽等で圧迫感を緩和するよう工夫すること
- ・ 親水スペースは水に触れる区間を多くすること（全体の半分くらい）
- ・ 流れには落差工をつくり、流れるところと滞留するところをつくる
- ・ 落差工には魚道を用意すること
- ・ 整備イメージ→広島県宮島白糸川の溪流砂防
- ・ 石積には優れた職人の手による造園的手法が必要である



＜事業コンセプト＞

- 溪流の河川景観形成
  - ・静と動の流れを再生する
  - ・発生石材活用で自然で単調にならない護岸
- 生活になじむ川
  - ・参道と永平寺川との接点づくり
  - ・生活文化の形を継承する（親水の間）
  - ・参拝者を清める水（清めの川）
- 永平寺川の自然的環境の維持向上
  - ・水生生物生息環境の再生
- 自然の営みにまかせた川の再生
  - ・現状の流下能力を維持し、現在の流れの姿を再現する（滲筋・瀬・淵等）

4.2 整備概要

上記の提言及びコンセプトをもとに、他の事業との調和を意識した設計と工事が進められた。主な特徴としては、永平寺川の横を通る旧参道の石畳みとの一体感を出すべく、色調にも配慮した巨石積工にて施工したほか、川の音や水の冷たさなど、川を五感で体験できる空間とする工夫を施した。また、右岸の旧参道と左岸の宿坊を結ぶ橋梁は、素材感を大切にするため、高欄や桁隠しに木材を使用し、永平寺の景観に合うものとするなどの配慮をしたほか、景観アドバイザーの意見をもとに、材料の選定や仕上がり状況を確認しながら慎重な工事が進められた。以下にその対策を示す。

- ・石材の産地や積み方を決定するため、試し積みを行い、景観アドバイザーから積み方の指導を得ながら修正を行い、作業員の感覚を整えた。表面を揃える積み方ではなく、凹凸で荒々しさを出していく工夫を行った。
- ・天端は、天端コンクリートを施工せず、あえて石の高さも揃えないようにした。
- ・石の大きさについて、上流は荒々しい大きめの石、下流では小さめの石で積み、上下でも下を大きくし、石の大きさを変えていった。
- ・落差工は自然石の組み合わせで施工することとし、元々あった石の位置を記録し、復元する形で施工した。追加する石は県産材（大野市）を使用した。



図-4 工事着手前



図-5 工事完成後



図-6 自然石で施工した落差工

4.3 その他の課題と対応

プロジェクトは、東京オリンピック開催の1年前の秋（2019年秋）に宿泊施設の営業をスタートさせること、さらに、福井しあわせ元気国体（2018年9月）までに参道の供用を開始することを前提に、逆算で工程が策定された。そのため、出水期に工事ができない河川事業には非常にタイ

トなスケジュールとなり、用地買収の開始から完成まで2年半の期限で、出水期の夏場を除く工事に加え、宿泊施設の造成工事や旧参道の無電柱化工事、治山工事等との工程調整も図りながら完成させる必要があった。以下に対策の一例を示す。

- ・ 工程調整会議を頻繁に開催し、各事業者との工程調整を実施。
- ・ 出水期には河道外の工事を集中して実施
- ・ 施工性を高めるため、工区の入口に仮設の柵橋を設置。
- ・ 用地買収が完了したところから順次工事に着手

その他、隣接する町道の幅員の狭さや埋設する上下水道管の移設、工事ヤードの確保など様々な問題についても、地域の方々の協力を頂いて解決しながら工事を進め、短時間での完成を成功させた。



図-7 完成後の全景

## 5. おわりに

「永平寺門前の再構築プロジェクト」の整備により、門前町とともに永平寺川の景観が驚くほど変わり、観光客だけでなく住民の方々からも高い評価を得ることができ、最近では「インスタ映え」する場所としてSNSを通じて発信されることで、さらなる観光客の増加につながっている。

本事業ののち、県としては近隣の永平寺川ダムを活用した観光客向けのイベントやダムカードの門前町での配布など、地域振興を後押しする新たな取り組みも進めている。

民間企業との連携による今回の事業スタイルは、これまでの公共事業にないスピード感やアイデア具現化のパワーを感じるものであり、その緊張感には特に若手職員にとって貴重な機会となった。この場を借りて関係者の方々に改めて御礼申し上げます。

高橋義治



福井県土木部河川課 参事  
TAKAHASHI Yoshiharu

中島智一郎



福井県土木部河川課 主任  
(河川整備グループ)  
NAKAJIMA Tomoichiro